



佐倉路地裏探索（樹木町から“路地裏巡り1”）

【令和4年9月】



佐倉路地裏探検隊

1. 栄町 ;

【近代】 栄町；昭和44年～現在の佐倉市町名。元は佐倉市鍋木町の一部。昭和54年の世帯数74・人口233

2. 鍋山；印旛沼南部の台地上に位置する

【近世】 鍋山村；江戸期～明治11年の村名。下総国印旛郡の内。佐倉藩領。村高は「元禄郷帳」13石余、「天保郷帳」「旧高旧領」共に21石余。江戸期を通じて無住。名主は弥勒町名主が兼務。安政4年（1857）「領分村高帳」によれば、小物成として夫役永（永楽銭の意）40文余・百姓林銭鏝（びた）151文（注”鏝一文まけない”とは・・・鏝銭は室町中期～江戸初期に私鑄された粗悪なわずかなお金。少しのお金でも一切値引きしないの意）北部山林に産土神社がある（どこでしょうか？）明治6年千葉県に所属。明治11年に鍋山新田に改称

【近代】 鍋山新田；明治11～22年の村名。印旛郡のうち。明治22年佐倉町の大字となる

【近代】 鍋山町；明治22年から現在迄の大字名。初め佐倉町、昭和29年からは佐倉市の大字。明治43年県立佐倉中学（現佐倉高校）が宮小路から移転するまでは無住地。その後第二次世界大戦後から宅地化が進む。昭和54年の世帯数132・人口412

3. 大蛇（おおじゃ）；印旛沼南部。高崎川右側の丘陵地に位置する。地内の文殊寺（廃寺）には天文6年（1537）千葉胤富（27代党首海隣寺、大佐倉勝胤寺に關係）寄進した華鬘（けまん。仏具）、天文16年（1547）仏龕（ぶつがん。小室、厨子の意）があったというのが今はどこに？大佐倉の吉祥寺に？

【近世】 大蛇村；江戸期～明治22年の村名。下総国印旛郡のうち。佐倉藩領。村高は「元禄郷帳」（1688～1703）339石余、「天保郷帳」（1830～1843）、「旧高旧領」（江戸末期最後検分で明治初期に作成）共に347石余。安政4年（1857）「領分村高帳」では、小物成として夫役永896文余・茶栗代永66文・山銭鏝3貫492文。元和年間（1615～1623）當村の一部を割いて本町を造成され、村は南北に分断。あわせて大佐倉を経て酒々井に達していた佐倉道が本町沿いに台地上を横断する事になった。明治6年に千葉県に所属。神社は神明大神社・麻賀多神社、寺院は真言宗蓮蔵院・自性院・文殊院・曹洞宗 東慶院。明治22年佐倉町の大字となる

【近代】 大蛇町；明治22年～現在の大字。はじめ佐倉町、昭和29年からは佐倉市の大字。明治24年の戸数28・人口84・馬10。昭和49年旧佐倉道の北側一面が千成1～3丁目に。東端の堀の内には団地が出来、市街化が進む。昭和54年の世帯数は795・人口2676

4. 樹木町（じゅもくまち）；

【近世～近代】；江戸期～現在の町名。明治9～22年は佐倉の冠称。江戸期の佐倉城下町の一つ。城外御樹木と公称。明治22年佐倉町、昭和29年からは佐倉市の町名。本町の造成後、佐倉町の北側に大蛇村地内を割地して藩の薬草園を造成したことにはじまる。安政2年（1855）の藩の実測図によると一画は56間四方の正方形で、管理小屋が付属しており、後に樹木町と通称。廃藩置県後士族屋敷地となる。明治24年の戸数5・人口29、昭和54年の世帯数14・人口48

5. 野狐台町；

【近世～近代】 野狐台町；江戸期～現在の町名。明治9～22年は佐倉を冠称。江戸期の佐倉城下町の一つ。明治22年佐倉町。昭和29年からは佐倉市の町名。地名の由来はやっこ（奴）による。江戸前期は鍋木・大蛇両村の入会地で、寛文頃（1661～1672）両村から分かれて佐倉城外の足軽屋敷となつた。なお、嘉永6年（1853）の絵図によれば野狐台町全体に大小23棟の長屋が見える。東部には南北36間・東西84間の菜園を設けられ、藩の薬草が栽培されたが、のち茶園となる。菜園の一部は梅林となり、多品種の梅が集められた。明治4年の戸数107、うち士族1・卒族106。のち民家が増える。明治24年の戸数58・人口220、馬3。昭和54年の世帯数103・人口303

6. 鑄木（かぶらき）；印旛沼に注ぐ鹿島川・高崎川右岸に位置する

【近世】**鑄木村**；江戸期～明治22年の村名。下総国印旛郡のうち。佐倉藩領。村高は「元禄郷帳」467石余、「天保郷帳」「旧高旧領」共に476石余。内海隣寺慮30石を含む。慶長15年（1610）土井利勝の佐倉入府に伴い一時途絶えていた鹿島城（佐倉城）の再築が始め、**佐倉城三の丸外にあたる地域の住民は強制移住させられ、城外の江原新田・萩山新田の起源となった**。又元和1615～1623）の佐倉城下町は、大部分が当村を割地して造成したものである。元禄14年（1701）村差出によれば、村高のうち19石余の永引や諸役御免70石がある。安政4年（1857）「領分村高帳」によれば、小物成として夫役永1貫103文・茶園代永17文・草刈代金1両・林下刈り錢鏝（びた）400門。明治6年千葉県に所属。神社は朝賀多神社、自院は真言宗大聖院・重願寺、曹洞宗周徳院・勝全寺・日蓮宗 妙隆寺他に薬師堂（薬師坂の上部台地上）等。明治22年佐倉町の大字となる。

【近代】**鑄木町**；明治22年～現在の大字名。はじめ佐倉町、昭和29年からは佐倉市の大字。明治24年の戸数185・人口939・馬34・舟4。大正15年京成電気軌道（元京成電鉄）佐倉駅開設。昭和19年堀田邸が佐倉日産厚生園となり、同56年その一角に特別養護老人ホームが設置。一部が昭和44年榮町、同48年鑄木町1・2丁目になる。昭和54年の世帯数747・人口2371

【近代】**鑄木**；昭和48年～現在の佐倉市の町名。1～2丁目がある。元は、佐倉市六崎・鑄木町の一部。昭和54年の世帯数・人口は1丁目18・339、2丁目は73・217

7. 裏新町；

【近世～近代】**裏新町**；江戸期～現在の町名。明治9～22年は佐倉を冠称（佐倉裏新町）。江戸期の佐倉城下町の一つ。明治22年佐倉町、昭和29年からは佐倉市の町名。江戸初期城下町の造成によって新町通りに並行してつくられまいた。通りの右側にあたっていたため「**城外新町右側**」と公称された。元和頃（1615～1623）迄は鑄木村内であったと思われます。後に小役人長屋が建ち並び、西側から大部屋（中間部屋）・新長屋・同心長屋に区分された。その東端は寛文年間頃（1661～1672）～明治初年の間監獄が設けられました（その場はその後佐倉市警察署になりました）明治になって下級藩士の屋敷地に。明治4年の戸数48、うち士族13・卒族35、商工業者は皆無。明治8年新町より新町小学校を大部屋に移転し新陽小学校に改称。明治21年佐倉尋常小学校に併合。神社は井杏里神社等。明治24年の戸数56・人口238・馬1・舟1。明治54年の世帯数51・人口141

8. 新町；

【近世～近代】**新町**；江戸期～現在の町名。明治9年～22年は佐倉を冠称（佐倉新町の意）。江戸期の佐倉城下町の一つ。（※佐倉真佐子では佐倉六町とは、田町・新町・肴町・弥勒町・本町と酒々井町です。海隣寺町、最上町・舟見町・裏新町・横町・二番町・間の町等は大きく包括されています）明治22年佐倉町、昭和29年からは佐倉市の町名。慶長15年（1610）土井利勝の佐倉入封以前、徳川氏が酒々井の大堀に根古屋城に変る新城を予定し城下町の建設に着手したが、利勝入封に際し鹿島城の再興に変更された。同時に鑄木村の山林を切り開いて作られた商人町が新町である。「各村級分」では佐倉藩領、「旧高旧領」では幕府領。村高は「元禄郷帳」「天保郷帳」「旧高旧領」とも54石余。街路形成に際し、佐倉城の一部として城の棒業を考慮し通りに屈曲（直角）を作った。嘉永元年絵図（添付絵図参照）によれば504間（約907m）に182軒の店舗・町屋が並んでおり「佐倉新町江戸まさり」とも称されます。町内には横町・上町・上二番町・仲町・肴町・間之町・に分けられ、横町入口には火防木戸番・番小屋・要所4カ所には辻番（箱番）を設置。新町では町人の店舗地に対する貢租は免除され、営業税として冥加金を上納。商人・職人等の統制の為、新町・弥勒町に各2名行司を置き、それぞれ郷宿に詰め藩庁との仲介役も務めた。新町では継続的ではないが定期市が開かれた事もあった。寺院は教安寺・延覚寺・宗円寺・甚大寺・嶺南寺。明治5年新町小学校開校。同8年裏新町に移転。同20年吉田伝衛門が佐倉英学校を設立。同22年佐倉町役場が置かれた。明治24年の戸数283・人口1460・馬6。昭和54年の世帯数277・人口947

9. **佐倉**；下総台地中央部、印旛沼南部に位置する。地名は古代に、印旛沼の舟運を利用してこの辺り一帯の穀類が集結して蔵が多かった説、「佐」が清潔を意味し、清潔な倉による説などがある（印旛郡誌）

【近世；佐倉】；江戸期の城下町名。下総国印旛郡のうち。江戸期の初期は、酒々井村が中心で大佐倉。大蛇村を含む範囲であった。慶長15年土井利勝が佐倉藩主として入封した際、鹿島城下（佐倉城）再築が開始され元和2年頃（1616）完成。中心も城下に移り、町割りも進む。城下は大きく城内・城外に区分され、佐倉街道沿いには一般的に佐倉町とも呼ばれた町場が伸びている。侍屋敷は城内、特に宮小路・鑄木小路（のち宮小路）を主として、

のちには海隣寺並木・舟見町・中尾余・最上町に広がり、下級武士や足軽・中間の長屋は裏新町・江原・野狐第等が多かった。商店街は田町・海隣寺門前・新町・弥勒町・本町往還沿いに集中。酒々井村の町場を含め佐倉六町と言われた（町奉行の支配地で、新町・田町・本町・弥勒町・本佐倉町・酒々井町の6町）。明治6年千葉県に所属、明治22年市制町村制施行により佐倉町となる

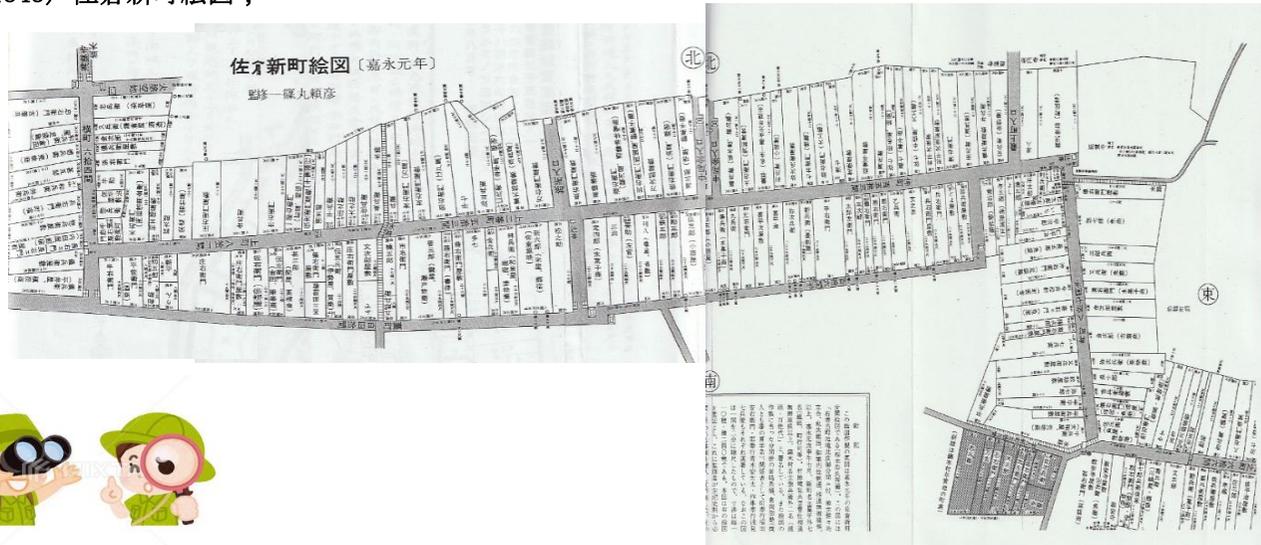
【近代；佐倉町】；明治22年～昭和29年の印旛郡の自治体名。江戸期からの佐倉町からの13ヶ町に将門町・鎚木村・大蛇村（飛地の野狐台を除く）・鍋山新田を合併して成立（新佐倉町）。新町・宮小路町・並木町・裏新町・中尾余町・最上町・海隣寺町・田町・弥勒町・野狐台町・藤沢町・樹木町・本町の13町と将門町・鎚木町・大蛇町・鍋山町の4大字とで編成。明治24年の戸数1444・人口7268・馬87・舟14。同42年の戸数1462・人口7507（あまり人口等は増えず）。明治22年桜東小学校は桜尋常小学校になる。同23年桜尋常小学校は桜西尋常小学校に改称し、同43年明治23年開校した佐倉高等小学校と合併し佐倉高等小学校となる。明治32年県立佐倉中学校開校（現佐倉高校）同40年桜実業補習学校、佐倉実践女学校開校。明治30年堀田家農事試験場創設（廃藩置県からは長い時がすぎました。その間堀田家は何をしていたのでしょうか）。

《※明治維新後、堀田正倫は知藩事に。廃藩置県後は東京に移住し、日本の文化活動推進??に貢献し明治17年伯爵、明治23年桜に戻り現在の堀田定跡に住み農事試験場設立、佐倉中学校維持発展に寄与明治44年死去。婿養子の正恒（鍋島家より）は明治44年家督を引継ぎ伯爵。東大大学院修了後大正7年貴族院伯爵議員となる（昭和21年4月迄議員で政治家）。北海道土幌にてのうち開拓し佐倉農場を開設。土幌町に「佐倉」という地区が現在も残る。正恒の長男堀田正久は佐倉市長、次男正之は坂田家に出て坂田の種社長に。》

産業は商業が中心。明治32年佐倉銀行創業。対象15年京成電気軌道（現京成電鉄）が開通、鎚木町に京成佐倉駅開設。昭和12年内郷村を合併&10大字も継承し合計13町14大字を編成。昭和29年佐倉市の一部となる。

【近代；佐倉市】；昭和29年から現在の自治体名。桜町・臼井町・志津村・根郷村・和田村・弥富村が合併して成立。44町71大字(その後多少増減しています) 世帯数・人口は昭和45年15135・60068、同50年 21312・80804です

10. 嘉永元年(1848) 佐倉新町絵図；



pink.jp - 46123170

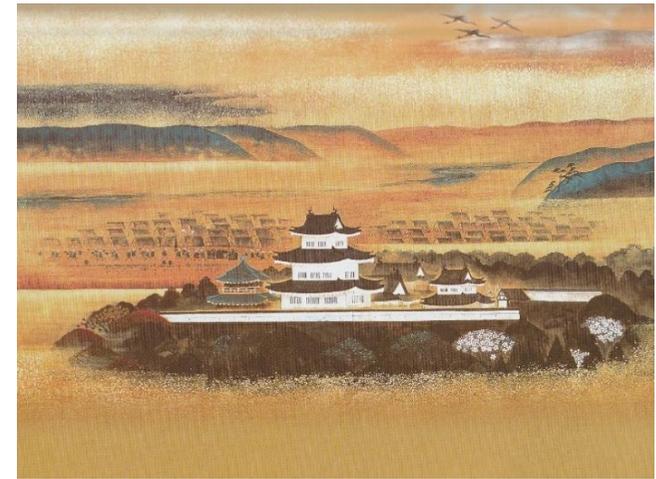
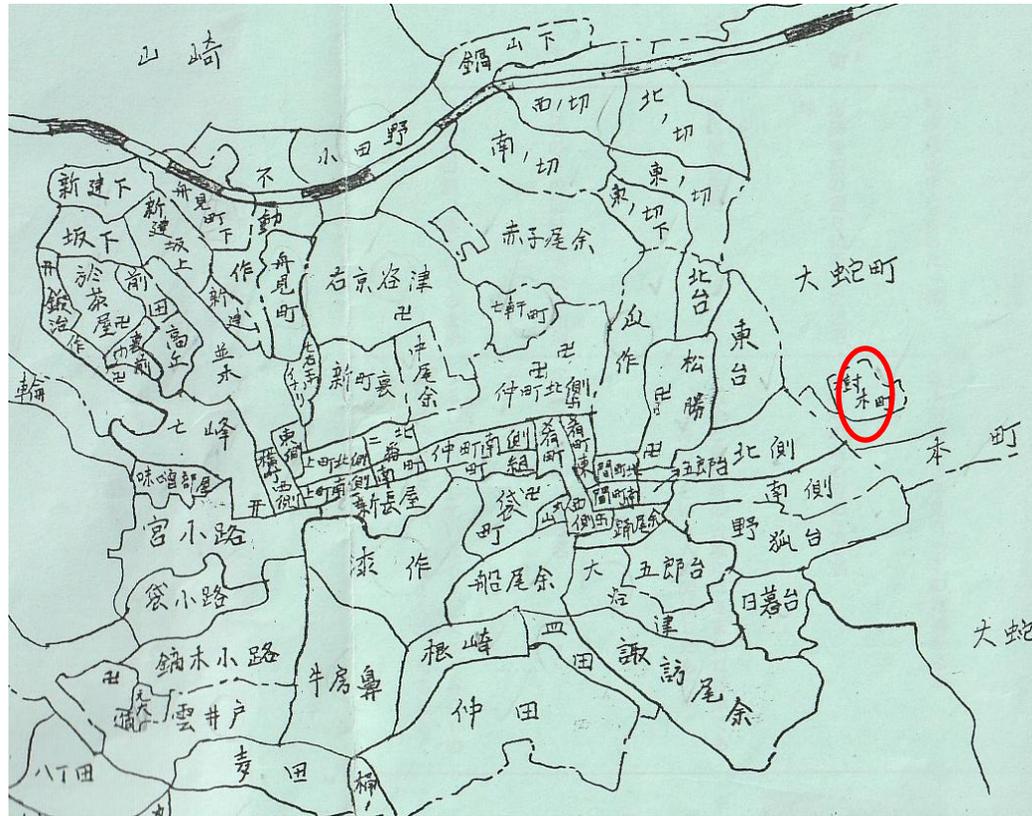


pink.jp - 47522269



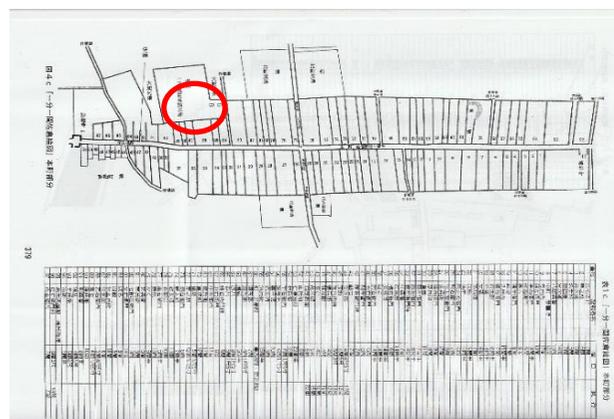
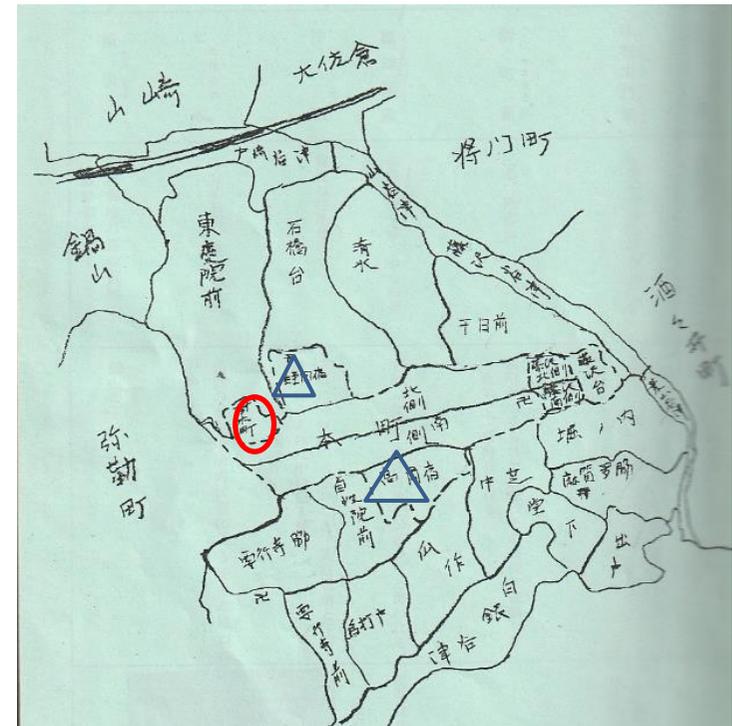
pink.jp - 54876010

11. 小字マップ（樹木町を中心に）



佐倉城

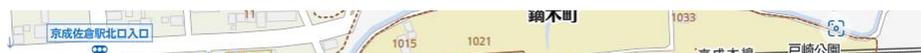
樹木町（じゅもくまち）と蛭田宿、高岡宿



本町部分の「一分一間佐倉絵図」に見る城下町の町割りに見る樹木町付近

著、櫻井会員協力による「旧相州佐倉城府内の街並みを時代を越えて読み解く」より

12. 散策マップ（路地裏巡り I）





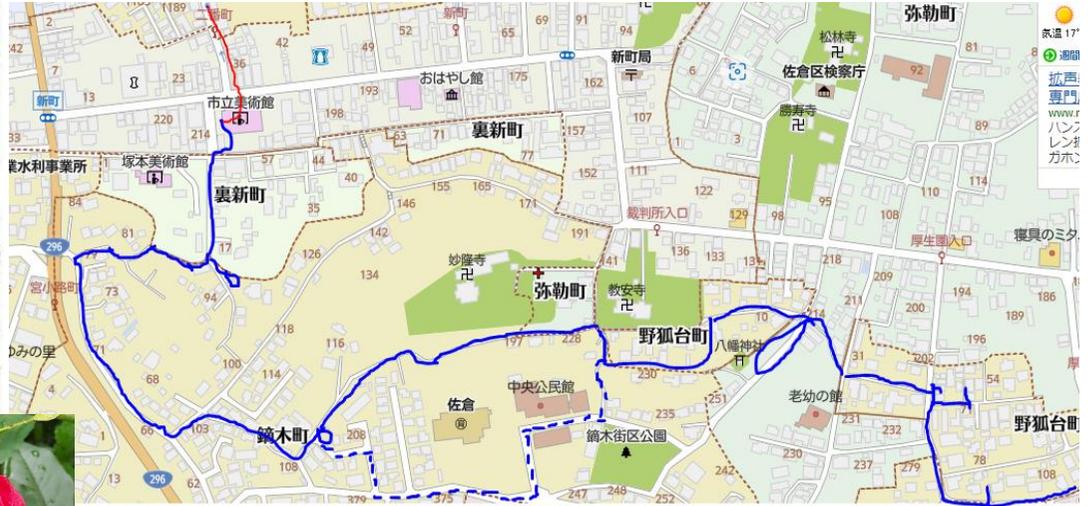
1



2



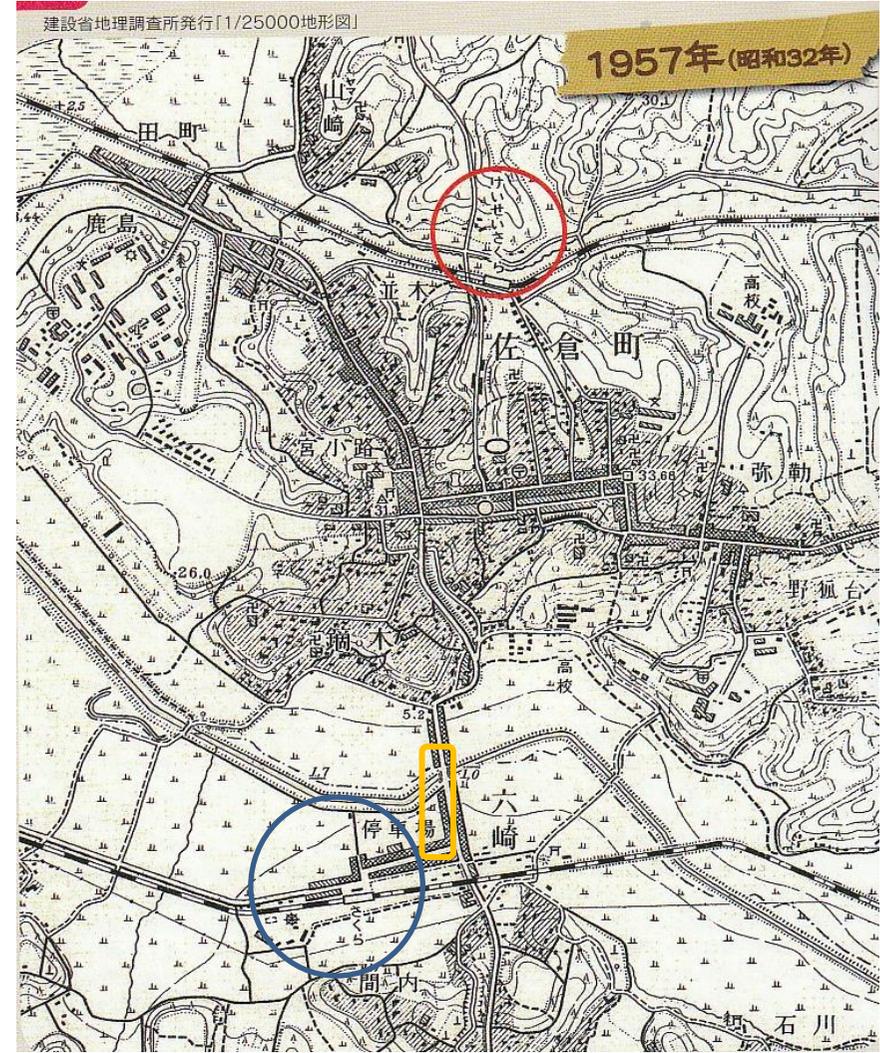
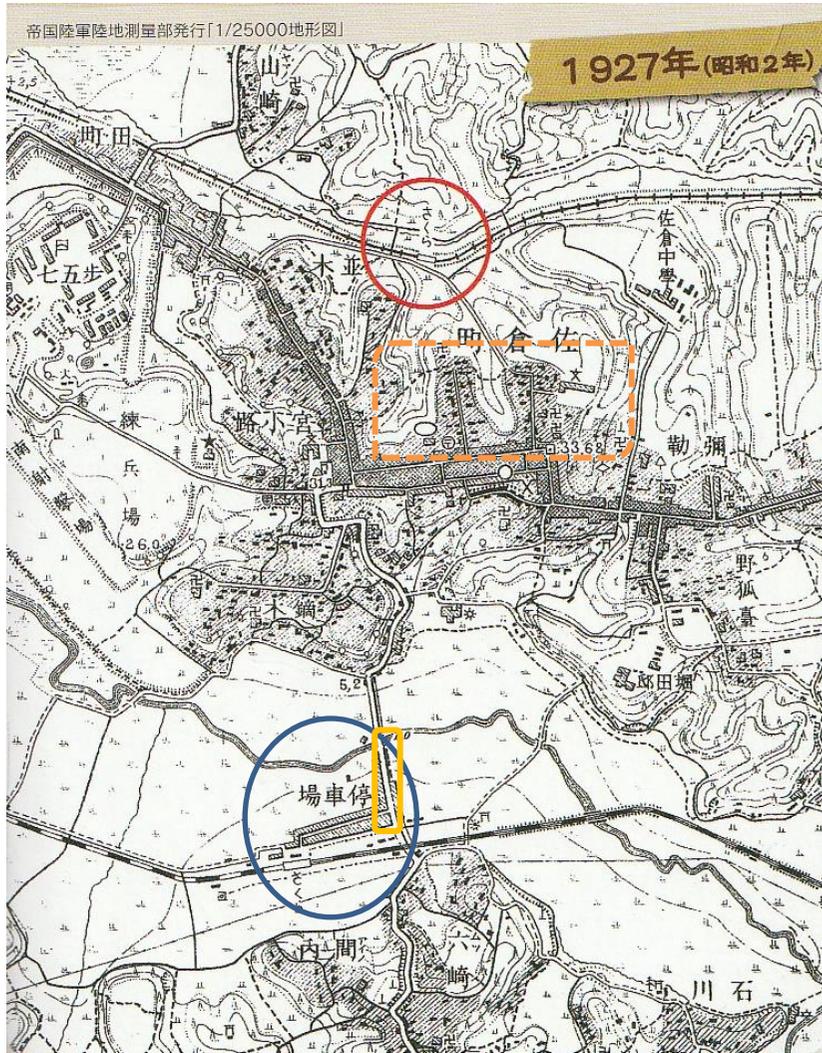
3



4



13. 京成佐倉駅とJR佐倉駅付近地図2枚；昭和2年と昭和32年との比較



京成佐倉駅舎とJR佐倉駅移転前の両駅駅前の状況と2本の新町へのIN OUT幹線はまだ未着工状況とをご覧ください
 京成佐倉駅とJR佐倉駅の駅舎移転後の状況、新規道路開設に伴う中心街の発展途次(昭和32年)をご覧ください。樋ノ口商店街は未だ健在です

15. 鐮木町と大蛇町の位置図 ; この両町は市内で大きな域を占めているが彼方此方にこの町名があります。一度頭の隅にいられておいて下さい



鐮木町(白抜き)

伏見 淀城跡



大蛇町(白抜き)



地区スポット説明

1	2	3	4
京成佐倉駅	坂(仮称 ^{キタキリサカ} 北ノ切坂)	坂(仮称 ^{ナベヤマザカ} 鍋山坂)	県立佐倉高校1
			
<p>京成佐倉駅は大正15年(1926)12月開業で、当初は「佐倉」駅を名乗り、昭和6年(1931)に「京成佐倉」と変りました。昭和37年に駅舎が現在地に移転し、橋上駅舎が生まれました。</p> 	<p>東京電力横の京成電鉄踏切から県立佐倉高校グランド迄のさかです。一気に台地上の住宅地迄上ります。約10度、200m程です。小字から命名しました。毎朝佐倉駅から佐倉高校学生が通学する道です。冬は北風を受けて寒いです</p> 	<p>京成佐倉駅近くの観光協会前を通り佐倉高校迄上り、今度は順天堂記念館迄一端下り更に上り坂になります。かつての台地の形状に合わせて坂が京成されています。栄町付近から順天堂記念館迄の坂を一括して鍋山坂と命名しました。勿論小字からの命名です。約900m、8度程</p> 	<p>御存知の方が大半ですが、寛政4年(1792)11代徳川家斉堀田正順(まさなり)が藩校「佐倉藩学問所」を創設、文化2年(1805)温故堂と称し、天保7年(1836)正徳書院と改称。その後校名を度々変え、明治34年県立佐倉中学校、昭和23年県立佐倉高校となった。当初は男子高校、昭和26年男女共学となった。現在の記念館(旧本館)は久野節設計で明治時代の洋式建築で国の有形文化財で現在も使用されている珍しい建物です。明治43年s蔵條大手門前から現在の鍋山町へ移転。この記念館もこの時新設されました</p> 

5

県立佐倉高校2



佐倉藩最後の藩主の正倫(まさのり)像です。譜代大名として、慶応4年(1868)徳川慶喜が鳥羽・伏見の戦いで破れ朝廷から討伐令が下ると、上洛して慶喜の除名と徳川宗家の存続を歎願したが、新政府から拒絶・京都軟禁されたことで藩主不在となった。家老の平野縫が新幕府に組みして大多喜城にすっべいた為、佐倉藩は改易を免れた正倫は維新後千葉知藩事となりました。私財を投じ農事試験所を設立、旧佐倉中学の維持発展に貢献しました。住いは旧堀田邸。墓所は甚大寺。藩校時代以来の蔵書「鹿山文庫」、関係書籍は県の有形文化財です(明治6年鹿山中学に改称された時もあります)



6

東慶院跡



曹洞宗 勝胤寺(大佐倉 大蛇 享禄5年・1532 千葉勝胤開基)の末寺で、六崎鏡寶寺十善講28番札所。何時頃に無住になったのでしょうか？昭和50年頃には本殿は既にありませんでした。写真も見当たりません。墓苑の大きさからそれ程起きな寺院ではありません。墓苑の入口の大きな地藏尊です



7

樹木町(じゅもくまち)の町並み



樹木町(じゅもくまち)の中心地が樹木稲荷です。小さな町ですが、未だに残った町です。古い地図をさがしたのですが、この町名が記載された地図を見つける事が出来ませんでした。迷子になってしまいそうな小さな直角に曲がっています



8

樹木稲荷神社



樹木町の中心地が樹木稲荷神社この稲荷神社です。後期堀田時代に進めた城下町に稲荷神社をお祀りした一環として、この本町から少し外れたこの町にもお祀りすべく稲荷神社を置いたのではないのでしょうか？



9

久保町バス停(本町)



10

妙見神社(本町)



11

鈴木金物の蔵(弥勒町)



12

坂(仮称 久保町坂)



一体「久保町」はどこに在るのでしょうか？バス停名として明確に名乗っています。明治21年の市制町村制定法にもこの久保町は存在せず、江戸末期の石高調査を明治政府が行った「旧高旧領取調帳」にもこの町名は存在せず。それ以前に存在した町名が現在まで町名として存続？？教育委員会文化財に問い合わせ中です

丁度バス停久保町の手前に、この妙見神社があります。この界隈に千葉家に関連していた方がお住まいであったのでしょうか？正面には絵馬がかけられています。非常に薄くなりかすかに一部のみ見ることが出来ます。この社は現在の後る側に「鍋山」という山がありその上部にあったものが現在地に移されたようです(「絵洲佐倉御白府内之図」による)

久保坂の途中にあります。明治3年12月、印旛郡佐倉町(弥勒町)で桐ダンス等の家具、建具等の清蔵販売、明治34年に金物商品の販売を金物部として併営されました。以降現在迄約150年の営業実績です。木造の店舗の横に、うっかりすると見落としそうですが蔵造りです。店舗用に一部変更されています

久保町の場所は15.2)参照下さい。この坂を仮称久保坂と命名しました。坂自身は順天堂記念館から妙経寺前迄U字型の坂です。約500m、5度程です。この馬に立って昔の地形を想像して下さい。堀田邸側に下り、反対側は佐倉高校の方に一部谷合があります。下っています。丁度馬の背に旧成田街道がは知っていた事を推測出来ます

久保町		平日		土休日	
5	46	1	5		
6	19	23	8		
7	06	22	8		
8	14	22	10		
9		22	11		
10	02		12		
11	00	42	13		
12	02	41	14		
13		42	15		
14	20		16		
15	18	20	17		
16		22	18		
17	00	22	19		
18	28	20	20		
19	34	34	21		
20	34		22		
21	34		23		
22					
23					

絵馬



13

妙経寺1(弥勒町)



14

妙経寺2



15

三谷家1(弥勒町)



16

三谷家2



日蓮宗経胤寺(大佐倉)の末寺で日蓮宗。承応2年(1653)に経胤寺の本実防先師が創建。本尊は釈迦如来像。住職は米倉義明、檀家325人。境内には摩利支天堂(間口4間奥行3.5間)と弁天(間口1間奥行4尺)があった。o



妙経寺奥には、日本民間航空界人材育成に非常に貢献した。説明書きに対象9年4月21日東京・大坂間無着陸周回飛行に参加し丹沢上空の写真が描かれています。実はこの時丹沢で墜落した為その後パイロットを断念。その後中島飛行機の創立者仲島知久平(ちくへい)の支援を受け、航空機関学校を設立し人材育成に貢献した



市内に6軒の統計有形住宅文化財は6軒あります。すべて現在も使用されていたり、open日が特定されており内部見学は出来ません。三谷家は江戸時代からの呉服太物を扱う老舗です。袖庫の創建は棟札から明治17年(1884)、主屋もその頃。座敷屋は昭和10年頃の創建。主屋は出桁造(だしげたづくり。2階の軒先注目。腕木が一番下でその上に横に桁、その上に屋根を支える垂木がある様式)とそれに並んで袖庫が建っている江戸時代の街道筋の老舗商家の構えです。広大な敷地も。丁度この三谷家の角を蛭田宿、高岡宿がありやはり印旛沼からの街道が戦国時代には存在していました



17

馬場家(弥勒町)



かつての旧道の交差点。この角地い蕎麦屋があったようです。敷地もかつての町割りを残しています。成田街道と蛭田宿・高岡宿を通り高崎・和田方面への旧道です



18

野狐台町稲荷神社1



佐倉城下にはいくつの稲荷神社があるのでしょうか？佐倉藩主堀田正盛が寛永19年(1642)に城外家臣に曲輪(長屋)毎に設置されたという10社の稲荷(中尾余町1, 最上町2, 裏新町2, 並木町4計10社)が有名ですが、加えて城下町に多いのは商売繁盛、火伏(防火)等の為です。城下町自身が台地上で水の確保が困難な為の火伏です。個人宅にも屋敷守として稲荷神社を祀られています



19

野狐台町稲荷神社2



野狐台町にも2つの稲荷神社があります。それぞれ町名にある如く身分の低い奴たちの長屋があり、その長屋別に御成神社があったのでしょ



20

野狐台町子安神社



安産祈願の子安神社です。しっかりした祠のある子安神です。手水は宝暦4年4月(1754)寄贈のもの。それから考えるとこの子安神社も江戸中期造立なのでしょう



21

弥勒町 八幡神社



22

野狐台町・鎗木町路地裏1と
もう一つの路地



23

野狐台町・鎗木町路地裏2



24

鎗木町路地裏



創建年代は不明です。祭神は誉田別命(応神天皇)木花開耶姫命を祀っています。かつては弥勒町五郎臺((間町南付近の小字五郎臺)にあったが、江戸末期火災によりこの珍事遷座。明示治29年火災により再建されています。明治43年3月12日弥勒町南より子安神社が合祀されました。本殿間口1間、奥行9尺。拝殿間口3間、奥行2間。

佐倉市の観光資源として、坂、蔵、丸い下ポスト、町割り等の他に「路地」があります。その一つがこの路地です。是非路地裏を探しながら佐倉市内をめぐってみませんか！**途中市内で最も巾が約60cm程の路地があるのも嬉しいものです**

路地裏が更に続きます。妙隆寺裏の路地です。船見美余公園付近を経由しますが、かつては道沿いに佐倉市初めての電力会社、同社社宅、近くに水道会社他繊維会社も近くにありました。鎗木町の中心地でもありました。丁度中央公民館の裏の台地縁の路地裏です。景色も良いです

この路地裏は猿が脇坂とも合流し、中央公民館に行ける路地裏(通学路)があります。この路地裏は元々は小さな水路があり、そこに蓋をして路地裏となりました



25

船尾余公園



舌状の台地を尾余(色々の字で表現)といひます。佐倉市内では小字から読み取った23ヶ所の尾余があります。因みに千葉県では175ヶ所の尾余(峠・比余・瓶・鉾・栗・表・俵・標・・・)があります。その内の一つが船尾余で中央公民館上の台地で路地裏になっている辺りが船尾余です。周辺には成就院尾余、中尾余、赤子尾余等があります。小字から読み取った尾余ですが、各地地元(上座では亀尾余、升尾余等)では小字でなく舌状台地に愛称として尾余名を付与している場所もあると思ひます(弊著平成31年2月「千葉県と佐倉市の小字 尾余・峠(ピョ

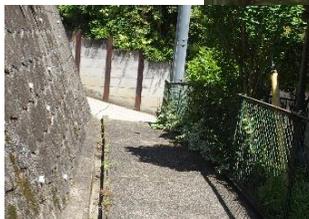


26

鏑木町路地裏



路地裏から65号線の下を市民体育館に行く道のトンネル手前を右折して直進すると猿が脇坂の途中に通ずる路地裏があります。右手は民家や竹林があります



27

幻の稲荷神社(屋敷守?)

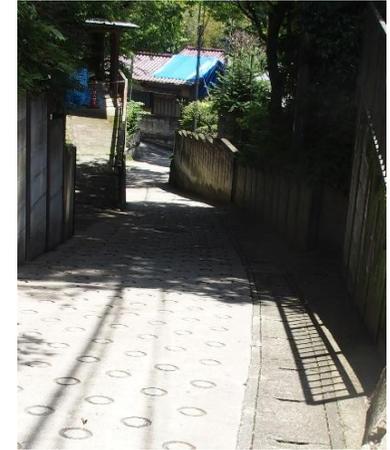


No26の路地裏の途中の竹林(私有地でした。入らないように!)不思議なものを発見しました。大きな赤い鳥居と社です。新発見です。直接お伺ひし確認しました。最近建てた屋敷守。鳥居のみ特大でとの事でした



28

猿が脇の坂



江戸時代中期には存在した坂名です。変った坂名です。小字にもないなめで。現在の小字なら紙町南側です。小字でも「北側」「南側」等付与された小字も散見されますが、この「猿が脇坂」がどうしてついたのか不明です。付近に「猿」という方が住んでいたという説(古今佐倉真佐子)もあります...



29

地蔵堂



猿が脇坂の途中にうっかり見落としてしまいましたが地蔵堂があります。かつては隣家の方が管理されていましたがご高齢でどこかに移転。以降近隣の方が管理されているでしょう。堂内には多くの地蔵が並んでいます。



30

市立美術館(新町)



佐倉市立美術館のエントランスホールは旧川崎銀行佐倉支店の建物です。大正7年建設です。一時は佐倉町役場(昭和12年佐倉町に売却)、佐倉市役所(現在の市役所は昭和46年建設)、中央公民館、図書館(昭和51年)等も利用しました



掛番1

旧川崎銀行



愛知県の町の一部

川崎銀行は現在の川崎重工、川崎汽船(川崎財閥)等とは全く関係ありません。水戸藩勘定方であった川崎八右衛門が明治5年(1872)東京に進出し川崎組を設立。この川崎組が明治26年(1893)合資会社川崎銀行に発展し、大正8年(1919)株川崎銀行となりました。「東京川崎財閥」はこの川崎銀行を中核に金融財閥として発展しましたが、昭和金融恐慌の影響で経営不振で第百銀行と合併し川崎第百銀行となりました。戦時東郷で昭和18年(1943)三菱銀行に吸収合併されました。東京本店、横浜、千葉、松戸、水戸、佐原、佐倉等に支店がありました



川崎銀行佐原支店

掛番2

佐倉真佐子著者渡邊善右衛門墓



京都市伏見区淀新町618 曹洞宗東雲寺に新旧お墓石があります。京阪電車淀駅下車。駅前には旧淀城跡があります。堀と石垣が残っています。戒名は「清霊院百歩酔荷居士」慶應2丙寅年10月7日(1866・これは何の年月。生誕年は元禄14年/1701 3月10日)宝暦12壬午年閏4月16日(1752・逝去日)俗名渡邊善右衛門守由墓とあります。藩主稲葉正知の伏見淀城転封に従い淀に転居しました。最後は淀留守居役で石高は4~500石程度?

